

箋 御上京横浜偕又野州鎮撫

諸仕組并達帳

(表紙)

慶応四年辰正月ヨリ

御上京横浜偕又野州御鎮撫

諸仕組并達帳

御側頭所

廿三番

3/126

(神奈川県立図書館丸印)

御上京ニ付仕組左之通

一、御本船電流丸御供船甲子丸臯月丸

ニて伊万里より

御乗船大坂迄被遊

御船中儀候

御碇泊

一、伊万里より相(藍)ノ島迄

三拾里

一、相ノ島より柄杉田沖迄 式拾五里
一、柄杉田沖より奥後島迄 四拾三里

4/126

一、奥後島より多度津迄 三拾六里
一、多度津より兵庫迄 四拾一里
一、兵庫より大坂天保山迄 六里
一、御船々載組御道具扱又御供人数等
書載之通被相定儀候

つけたり

附 御用物其外之儀其役々より心遣載組

相成候様之事

一、御本船電流丸積込御道具扱又
乗組人数

*安政5年11月(1858)佐賀藩がオランダ政府から101万ドルで購入した。木造軍艦。3本マスト、長25間巾4間。

一、御挟箱 三 一、御鍵 三本

一、御打物 一、御長柄 *太鼓などのこと。

一、御手傘 一、御床机

一、御胴乱 一、御茶弁当

一、御菜弁当 一、御引出挟箱一荷

一、御水樽一荷 御台所拵一 御臺長持一棹

上ニ同一、御膳具入箱壹夕 上ニ同一、御両掛一荷

御腰物方其外拵一、御両掛一荷 上ニ同一、御長持一棹

上ニ同一、御風呂方一通 上ニ同一、御刀掛

上ニ同一、御敷壇 御台所拵一、駄荷篋筒式ツ

5/126

上_二同一、御菊箱 式ツ 上_二同一、御雪洞桶式ツ

*小さな行灯。

上_二同一、御挑灯壺ツ 上_二同一、御幕葛籠(つづら)一ツ

上_二同一、御医師菓籠二荷

本島藤太夫

張玄一

山口一郎

犬塚文十郎

田中喜十郎

前山清一郎

+

深川龍之助

石井小源太

古川源太郎

百武安太郎

石井弥十

城富弥六兵衛

田中大之進

河内覚助

宮田豊齋

6/126

渋谷良次

井上仲民

坂本文悦

夏秋作左衛門

岩瀬秀六

御臺所附役

御歩行目付

定御側頭

御裏納戸付役

下目付一人

+

野口儀平

中馬善之助

霧田儀兵衛

小道具式人

下坊主式人

御草履取壺人

御衣装番其外式人

御駕籠之者五人

御茶弁当之者壺人

7/126

御衣装納戸

其外手男式人

御風呂方同一人

御台所一統式人

四拾一人

右同手男三人

臺子同壺人

御茶道方同式人

一、甲子丸積込御道具扱又乗組人数

*1857年イギリス製造の鉄製スクリュウ蒸気船。元治元年

9月(1864)イギリス商人より佐賀藩が購入した。長28

間4尺500トン輸送船を軍艦に艤装した。

一、御鉄砲

一、玉菓箱

- 一、御長柄
- 一、御鎌箱
- 一、御鐵砲箱
- 一、御簍箱
- 一、御桐油箱壹荷
- 一、御床机胴乱壹荷

*皮または布製で長方形の腰に下げる袋。最初鉄砲の玉入れとして用いたが転じて印、薬、銭またはタバコなどを入れた。

+

- 一、御時計壹釣
- 一、御進物方其外引出挾箱五荷

- 一、田中五郎左衛門行列道具
- 一、鐵砲一、玉菓箱一、長柄一

兩掛一、合羽籠式

- 一、倉永仁太夫古川與一右同

鐵砲二、玉菓箱二、兩掛二、合羽籠二

- 一、諸熊義左衛門高木弥左衛門右同

鐵砲二、合羽籠二、兩掛二

8/126

- 一、河内覚助其外七人鐵砲七、兩掛七荷

- 一、別段御供侍百七拾人兩掛

- 一、諸役所兩掛

- 一、御側供御先立目籠駄荷

原田小四郎

田中五郎左衛門

倉永仁太夫

古川與一

諸熊茂左衛門

+

高木弥左衛門

名尾宅馬

秀島忠右衛門

秀島善太夫

竹野喜傳太

成嶋大兵衛

山崎忠兵衛

藤瀬孫太郎

秀島卯右衛門

9/126

御供之別段御供 侍百式拾人

右同御先越内 同三拾人

手明鑓

兵動忠平

中村義左衛門

大坪辰之進

江里口助九郎

諸熊善作

藏元手伝一人

御納戸手伝一人

森弥一郎

御歩行

池田六内

塚本嘉右衛門

古賀半兵衛

蒲原儀平

大島稽介

10/126

御側供式人
御先立五人

元方下役一人

坊主式人

藏元下役二人

御武具方同一人

御納戸同二人

御供之別段足輕五拾人

小道具拾人

下坊主式人

御草履取一人

+

御仲間三人

御茶弁当之者一人

御武具方手男一人

手男式拾人

原田小四郎従者六人

田中五郎左衛門同三人

倉永仁太夫同式人

古川與一同一人

諸熊茂左衛門同九人

11/126

別段御供侍同六拾人

手明鎧同三人

下村辰右衛門始拾人

二百七拾七人

一、皐月丸積込御道具扱又乗組人数

*1862年イギリス製造鉄製スクリュウ蒸気船、長28間3尺370トシ慶応2年(1866)イギリスより購入した。

一、御腰物入長持 一、御鎧替柄

一、御駕籠壱挺

一、御台所式棹

一、御簾長持式棹

+

一、駄荷箆筒三ツ

一、御武具方長持

御台所拵

一、高張提灯六張竿共

一、御幕葛籠壱ツ

一、御雪洞桶壱ツ

一、箱同

一、中野数馬行列道具

鉄砲二、玉薬箱一、両掛一、駕籠

合羽籠二、駄荷一

12/126

一、本嶋藤太夫右同

鉄砲一、鎧一、長持一、玉薬箱一、両掛一

合羽籠二

一、張玄一右同

鉄砲一、鎧一、玉薬箱一、両掛一、合羽籠

一、山口栄四郎犬塚文十郎右同

鉄砲二、両掛二、合羽籠二

一、田中喜十郎前山清一郎右同
鉄砲二、両掛二、合羽籠二

+

一、深川龍之介其外拾一人鉄砲拾一挺両掛拾一荷
一、中嶋善九郎山崎忠兵衛鉄砲式挺

両掛式荷

一、諸役所両掛

中野数馬

徳嶋九兵衛

石橋嘉源太

中嶋善九郎

別段御供侍式拾人

13/126

手明鍵

徳久節之助

古川帙一郎

高田袈裟八郎

郡目付一人

蔵元手伝一人

御納戸同一人

土屋芳之助

川崎平四郎

御歩行

池田仁兵衛

+

山崎幸平

八谷熊六

御先立五人

七石格坊主式人

御懸硯方役一人

御番所臺膳足輕一人

右同下役一人

蔵元下役一人

御納戸下役一人

14/126

御火術方下役一人

御武器方同一人

御鉄砲師式人

別段御供足輕三拾人

足輕五人

小道具目付式人

小道具拾人

下坊主一人

御仲間四人

一孤(鼓?)三人

番子式人

御武器方手男一人

御駕籠之者四人

手男式拾三人

御口術方手男一人

中野数馬從者

御本船乗

本嶋藤太夫従者三人

張玄一同式人

15/126

山口一衛始拾六人之

同拾六人

徳嶋九兵衛始同三人

別段御供侍同八人

御本船乗手明鍵八人之内一人

手明鍵同五人

〆百七拾六人

一、渡海船ニテ御先行

一、渡海船三艘

+

御馬方下役一人

御召馬口取七人

番御馬方口取六人

御召馬式疋

番御馬三疋

一、同六艘

別段御供侍八拾人

同従者四拾人

別段医師式人

16/126

同従者四人

別段御供足輕

六拾六人

当御上京御供立行列道具

其外左之通

一、持鍵之儀御年寄之外侍中不及

候事

+

一、具足櫃之儀一般相省被置候事

一、御行列立之儀御年寄始与力手提灯間

附御駕籠脇紙合羽之儀黒色相用候様

スペンセル(元込め銃)

自分筒

一、鉄砲之儀御年寄は式挺侍中は壱挺宛

為持候様御医師御茶道も同様

附玉薬三拾放宛胴乱入込自分用意相成

候様尤自然之節不足次は被相渡儀候右ニ付

鉄砲不用意之向江は一次拝借被差出儀候条

達出相成候様右為杯筒袋入不及皮覆之

17/126

之儀は被相渡儀候

但陣羽織は組頭中

一、陣羽織并小袴裁付間胴服陣笠等

用意之事

*どうぶく・羽織の古称。袖付きと袖なしがあり袖なしは主として武士の陣中用とされた。

別段御供之儀皮甲用意之事

一、自然出火之節御供中は御供之支度

いたし早速 御本陣相集可被申候但

火事囊（装束？）束ニ不及胸服裁付着用
相成候様

附者事仕組之儀於其筋相整候様

* たつつけ・裾を紐で膝下に括り付けられる袴。野袴。

+

一、御道中侍手明鐘中迄割羽織裁付着用
之事

* 割羽織・ぶつさきばおりの事。武士が乗馬旅行などの時に用いた背縫いの下半分を縫い合わせないでおくもの。

一、麻上下継肩衣用意之事

* 江戸時代の武士の公服の一部。袴と合わせて用い上下同地同色の場合は袴といい、違う場合は継袴と呼び上を肩衣といって区別する。

一、綿服之事

附平袴襠（うちかけ）高取更之事

* 男子の普通の袴。半袴。

一、袖印扱又腰兵糧入等銘々用意之事

エンヒールド（先込め）短筒

一、手明鐘中鉄砲壱挺宛玉菓共京都ニ

おいて被相渡候事

右同

一、役御徒御先立江鉄砲壱挺宛玉菓共

18/126

右同

右同

一、役足輕飛脚前其外江右同

右同

一、小道具中右同

一、御歩行以下甲笠筒袖襦袢御駕籠

心遣元ノ方上役ニ持越相成候様

別段御供

一、別段御供侍式百五十人

但式番組合之内八十人借船残五十人御船乗

+

此内式番組合百三十人大坂迄御先行壱番

組合百式拾人御昼代^{かわり}ノ六十人宛御供

御供偕又非番之内十人宛御本陣相詰

半夜代りニ不寝番勤相成候様偕又伏見より

二番組代り合惣御供一番組中は御先越

之事

一、久原ニて別段御供五組被相残置候付

一組合宛暮六ツ時より明六ツ時迄吉祥寺

相詰候様被 仰付儀候

附半夜代りニ不寝番之事

一、別段御供侍百三十拾人同医師之儀

19/126

御発駕前両度被差立候事

一、組合之儀十人宛之事

一、当番之人は通人足壱人宛被差出儀候

一、非番之人は継人足壱人宛被差出儀候

一、拾人舫継馬壱疋宛往来共被差出儀候

一、主従式人路銀其外跡方之通被差出儀候

尤駄災之儀ハ被相省儀候

附御先越之人ニは両掛持継人足耆人宛
被差出儀候尤駄災之儀は本文之通

十

エンヒールド短筒 (先込め銃)

但御先行足輕六拾六人御先越ニ付正月四日より出立之事

一、別段御供足輕百五拾人

此内御先行六拾六人御筒六拾六挺於大坂被相渡

御供八拾四人御筒八拾四挺於爰元被相渡

一、御本陣番拾四人

御昼休御小休江三人宛御泊江五人宛詰切半夜

代ニて不寝番一時ニ四度小半時ニ壹度宛拍子木

打時廻いたし候様尤伏見より惣御供之事

附り御本陣番鍵繩十手之事

一、別段爰許御供足輕八拾四人

20/126

此内御本陣番十四人御筒揃十三人爰元付出

御供揃五十七人明四日三重津より甲子丸乗与

大坂より御供之事

久原ニて左之通書取を以元々方江達之

別段御供足輕百五拾人

内

六拾六人

右は佐嘉表より御先行

拾四人

右は御本陣番

十

御鉄砲持拾三人入て

残七拾人甲子丸ニて大坂行

御滞京中左之通

一、御屋敷詰中御目付方存ニベ以下々迄

御門札を以致出入候様但御門限明ケ六時より

暮六ツ時限尤御用ニ付夜中致出入候半て

不叶節は其訳御目附方江相断夜札

申宛罷出候様

附御門出入之儀御徒目附より手締相整候様

21/126

一、諸家人数江不相混ため白地ニ黒之

角取印被相渡儀候条以下々々迄銘々

前之方腰ニ提候様惣て一統猶又屹度引嗜

聊ニても後之儀無之様

附本文腰印之儀布ニベ手明鍵迄小形御徒より

役小道具迄中形下坊主より御仲間手男

又は大形被相渡儀候

一、御用之外諸家之人と私ニ応接等は勿論

文通等堅無之様

一、火之元大形無之様就中火薬箱有之

十

最寄不用心之儀無之様其請持より應ニ

心遣相成候様

一、自然出火之節御供立中胴服裁付(どうふくたっつけ)

着用冠物等用意急速相集可被申候

一、別段御供足輕百五拾人順番を以火用心

時廻り番屋詰兼被 仰付候儀候条昼兼

無懈怠勤番廻方いたし候様

附昼は一時ニ一度夜小半時ニ一度宛拍子木
打廻候様 *およそ一時間。

- 一、上下一統食用焚出被差出儀候

22/126

附右仕組之儀は於其筋相整候様

- 一、別段御供侍之儀六拾人宛昼夜四代ニ相詰候様夜半代り不寝番相成候様

附り御使者等有之節は先以引入置其段

御進物役江申通相成候様

- 一、同並手明鍵五拾人五番ニ御屋敷内

昼夜共折々見廻相成候様

- 一、別段御供中之儀銃陣的前等之稽古

懈怠なく有之候様且又役掛之向も

御用透(すき)を以同様稽古有之候様就は玉葉

+

之儀は御手元より被差出儀候

- 一、別段御供侍外出之儀五日ニ壹度宛之事

附足輕も准右候事

- 一、外出之刻茶店等立寄酒食等一切有之

間敷事

- 一、興聖寺江用向有之参り候節御門札

を以致出入候事

- 一、自然遠所等罷越候半て不叶節は

23/126

其段願出相成候様之事

- 一、御参内其外御廻勤之節御行列并

御供中着服等は迄之通

- 一、略御行列之節御供中着服等左之通

一、御供侍中棧さんともめたばかま留ちか襠高袴割羽織

*さんとめ・インドのコロマンデル地域、サントメから渡来した縞織の綿布であるがのち縦縞で赤または浅黄の混じったものを称した。

*高い位置に袴を着付ける事。

紺足袋之事

- 一、御徒中袴羽織紺足袋之事

附御通中同様割羽織之儀其筋より

被相渡儀候

- 一、小道具目付押袴黒絹羽織之事 ?

+

- 一、御道具掛其外是迄之通

- 一、又供小姓之儀袴妻投立之事
以上

卯十二月

右之趣奉得其意候以上

御進物役御侍中

手明鍵中

御徒中

何れも名書

24/126

御滞京中左之通

- 一、御屋敷詰中以下々々迄御門札を以

致出入候様且御門限明ケ六時より暮六時

限尤御用ニ付夜中致出入候半て不叶

節は夜札申宛罷出候様

附御門出入之儀御歩行目付より手締

相整候様

一、諸家人数江不相混ため白地ニ黒之

角取印被相渡儀候条以下々々迄銘々

前之方腰ニ提候様惣て一統猶又屹度

+

引嗜聊後之儀無之様

附本文腰印之儀布ニベ手明鑑迄小形

御歩行より役小道具迄中形下坊主より御仲間

手男又は大形被相渡儀候

一、御用之外諸家之人と私ニ応接等は

勿論文通等堅無之様

附他邦之人江御国方之義抔何角猥ニ

口外等無之儀は勿論之事ニ候得共他藩之

誹判抔決て無之様以下々々迄精々申付相成候様

一、火之元大形無之様就中火薬箱有之

最寄不用心之儀等無之様其請持より

25/126

忒ニ心遣相成候様

一、当折柄之儀ニ付ては何時異変可有之哉

難計ニ付以下々々迄聊手後之儀無之様

兼々鉄砲其外草履等ニ至迄夫々相備え置

期ニ即速ニ御式臺遍迄相集候様

附一人前草鞋式足ツ、被差出儀候条銘々代銀

相納兼て請取相成置候様

一、自然出火之節御供立中胴服裁付

着用冠物等用意急速相集候様

一、別段御供侍之儀六拾人宛昼夜四代ニ

+

相詰夜半代り不寝番相成候様

附り御使者等有之節は先以引入置其段御

進物役江申通相成候様

一、同並手明鑑五拾人五番ニ御屋敷内昼夜

とも折々見廻相成候様

一、別段御供足輕百五拾人順番を以火用心

時廻り番屋詰被 仰付儀候条昼夜共ニ

懈怠勤番廻方いたし候様

附昼一時ニ一度夜小半時ニ老度宛拍子木打

相廻候様

一、上下一統食用焚出被差出儀候

26/126

一、兼々被相達置候通酒食之寄合等

無之儀は勿論ニ候得共聊ニても栄耀 *贅沢なこと。

等敷儀等決て無之様平日在陣同様之

心得相成候様

一、旅人之儀成丈御門不入込候様無之て

不叶ニ付是非罷通候ハて不叶者之儀は

御留守居印鑑之板札ニて差通シ惣て

本人随従之者も可入来哉ニ付猶又氣を付

差通候様

+

- 一、別段御供侍御同並手明鑓之儀鎗劔等之稽古有之候様於然は稽古道具之儀は役筋より整入渡方相成候様
- 一、別段御供中銃陣的前稽古無懈怠有之候様且役掛之向も御用透を以同様稽古有之候様就右玉葉之儀ハ御手許より被差出儀候
- 一、別段御供侍外出之儀一日ニ五拾人宛手明鑓之儀は一日ニ拾人宛足輕之儀は一日ニ三拾人宛昼代リニズ外出之事

27/126

- 一、自然出火其節異変之節兩御門番より小屋々々前通拍子木を打切無ニ致数打打廻候様
- 一、右拍子木承付候ハ、即時ニ相仕廻り切式台前遍江相集候様
- 附別段御供侍其外之儀は先以小屋々々前ニ列ニ相備居御差凶次第御供相勤候様
- 右之趣被得其意支配有之役々は應ニ可被相達候

十 右之趣奉得其意候以上

御進物役始侍中
手明鑓中
御徒中
何れも略之

自然非常之節別段御供侍手明鑓足輕隊分役目割其外仕組別儀之通被相定儀候

28/126

- 一、御一手之印幟半合図之儀は太鼓被相用儀候
- 一、立込場之儀 御本陣内江番付之板札被相立置候
- 一、合図之太鼓にて一統支度相整一隊々々無

混乱立場相集御差凶相待候様尤 たてば *ある事をすべき場。

- 一隊より惣心遣一人宛御本陣罷出御差凶相伺候様之事
- 一、非常御操出之節大小銃玉葉御武具方

十 役之内より其向々運送一隊々々玉葉存之人江引付相成候様

- 一、同断之節兵糧之儀は役筋より出張之向々江運送一隊々々右心遣之人江渡方相成候様
- 一、同断之節外使用番馬被相渡儀候

以上
辰二月

右之趣奉得其意候以上

29/126

御馬方

別紙

御蔵元
御武具方

壱番隊

隊伍心遣

*用心・警戒の意?

石井文次郎

同助

村岡謙助

伍長

関峯太郎

+

右同

志波又太郎

久保善之允

櫛山弥助

勝屋恒四郎

柴田源之助

関本小五郎

安住官太夫

森川麟八

向井小三郎

30/126

中野一之進

山内甚八郎

島内藤吉

大渡文次郎

生島精八

+

久保助之丞

石橋為太郎

藤崎嘉源次

千住安左衛門

下村謙之助

川崎卯吉郎

半田幸次郎

増田大一郎

朝倉弾蔵

江副栄次郎

中地藤太

藤山忠八郎

中橋藤一郎

31/126

宮原彦六

土肥平之允

柴田六之助

高岸甚六

□助弟

多田源之助

玉薬分配

直塚孫八

手明鑓右同

高柳熊六

+

右同

足輕式人

兵糧并手負心遣兼

堤久之允

右同

足輕式人

從者

右惣心遣

小代清八

式番隊

隊伍心遣

山村善太夫

同助

千住庸吉郎

伍長

益田文太夫

右同

石隈次左衛門

馬渡国太郎

大隈欽次郎

江口庸助

中野彦三郎

高柳徳太夫

宮永秀之進

+

32/126

33/126

+

秀島六郎

千布寛蔵

兼康勝之進

大石貞次郎

馬渡熊一郎

宮島林左衛門

千葉勝太郎

江副千八

岡部七之助

石川宥之進

田中庸三郎

百武平蔵

松村登太郎

馬渡作次郎

嘉村喜八

横山勲蔵

戸田基一郎

上野助作

志波清八

牟田口徳太郎

石井庸三郎

石井九三郎

古賀源六

玉葉分配

34/126

福地助太夫
右同 手明鑓
川原又藏

右同

足輕式人

兵粮并手負心遣兼

大木八郎左衛門

右同

足輕式人

右惣心遣

諸岡鍊吉郎

三番隊

隊伍心遣

島内萬作

+

同助

半田藤太

伍長

堤文八郎

右同

堤三四郎

田原謙之助

藤井源三郎

35/126

山田五郎助
野田万六
久布田貞一郎

藤本鉄一郎

野田弘平

石井辰吉郎

修行幸次郎

小柳清三郎

古賀卯六

松永力之允

多久勝太郎

北島主一

+

原辰一郎

石井円藏

田代七郎

島内嘉四郎

石井傳太

福田大之助

石井才吉

甲田大兵衛

末次源助

36/126

松本辰之允

石井平八

大塚豊太郎

+

副島助之進

木塚林八郎

玉葉分配

蒲原傳右衛門

右同手明鍵

原愛助

右同

足輕式人

兵糧并手明心遣兼

石井嘉藏

右同

足輕式人

右同惣心遣

永田源之進

四番隊

隊伍心遣

朝倉多作

同助

龜川清次

37/126

伍長

武富七郎

+

右同

副島平兵衛

副島寛之助

百武豊吉

北嶋熊吉郎

徳嶋極馬

平野左傳吉

真崎藤平

小川清治

深堀啓六

藤山席三郎

大塚左源太

廣田武之允

野口清右衛門

丹羽平八郎

青木大九郎

横尾六治

38/126

藤山八郎

古賀仙吉郎

江口奎之丞

牛嶋与助

今泉新次郎

池野勝馬

山崎官一

原大之助

+

北原節一郎

江原弥次郎助

池田助之進

三谷忠太

米倉清之允

宮崎大助

千布源兵衛

空果節藏

夏秋兵一郎

39/126

玉葉分配

村山綱一郎

右同
手明鎗

服部権之助

右同

足輕式人

兵粮并手負心遣兼

松村謙左衛門

右同

足輕式人

從者

右惣心遣

千布大九郎

+

五番隊

40/126

隊伍心遣

石田熊六

同助

竹下孫一

伍長

齊藤内藏允

右同

志波藤太夫

志田吉助

北島力人

石田利平太

相浦又六

成富助太郎

原口加助

田原文之進

江里口藤七

木下市郎次

太田元三郎

山本清吾

石井嘉源太十

+

中嶋弥十郎

大坪清八

古川善作

野口魁藏

41/126

生野小十郎
名尾文平
鹿江五郎三
徳久源之助
須古清之介

太田哲之介
前山寛藏
西村八一郎
荒木藤三郎
三浦安之助
修行善吉郎
野辺田鶴一郎
石井小次郎
大木清七郎

玉葉分配
古山辰之助
右手明鑑
中溝龍太郎
右同
足輕式人
兵粮并手負心遣兼
副嶋重右衛門
足輕式人
従者

+

42/126

右惣心遣
荒木権六

六番隊
指揮方

多久万太郎
同助

平本熊之助
伍長手明鑑

山本守吉郎
右同

真崎五郎七
田尻吉左衛門
諸熊敬吉
武富剛藏

服部源一郎
片岡傳蔵
酒井源吾
石井文作
田口浅一郎
益田羈一郎
山口大次郎
赤月礼四郎
江口礼助

+

43/126

+

渋谷勇藏
 生田源八
 土屋孫太郎
 前山文平
 中嶋又吉郎
 山田平藏
 光武官一
 早田作次
 副島啓助
 馬渡勇藏
 蒲原末次郎
 神代治平
 古賀文八
 中嶋太郎
 上野又兵衛
 武富精之助
 三浦作之進
 鶴鉄之進

44/126

家永彦藏
 田雜弁内
 大嶋弥平
 古賀良三郎
 武藤寛次

+

45/126

玉薬分配
 久池井庖太郎
 右同手明鏡
 梅野文吉
 右同
 足軽式人
 兵粮并手負心遣
 坂井雄平
 足軽式人
 從者
 右惣心遣
 馬渡雄左衛門
 七番隊
 指揮方
 原田清一朗
 同助
 直塚奎之進
 伍長
 足軽式人
 同四拾式人
 玉薬分配
 原口愛次郎

+

右同手明鍵

江島卯藏

右同

足輕式人

兵粮并手負心遣

小島秀之允

足輕式人

從者

右惣心遣

成松諸平

八番隊

指揮方

伊東喜三郎

同助

原口大三

伍長

足輕式人

同四拾五人

玉葉分配

平田謙八

右同手明鍵

石丸雄平

右同

足輕式人

46/126

+

兵粮并手負心遣

関大五郎

右同

足輕式人

從者

納富精一

野戦銃四封度(1・814kg)

指揮方

村山又兵衛

原喜惣太

蘆田清八

田雑源六

宗大藏

廣木泰助

足輕式人

從者

同四ホント
指揮方

平方治三太

深川一左衛門

安住平太夫

江口大助

川副嘉源太

持永助右衛門

足輕式人

47/126

+

従者

同アルム銃 (アームストロング砲?)
*大砲の一種英国アームストロング社製の速射砲鋼鉄砲。大砲の一種。筒内部に螺旋条が付いていて弾丸は後尾装填式。54年制作された。 18

指揮方

田口忠蔵

綸山辰之助

牛嶋又七

石井源五郎

松永新五郎

足軽式人

従者

48/126

同アルム銃

指揮方

諸岡弾九郎

富岡弥一左衛門

原新兵衛

雪田又左衛門

小川壮内

志津田又次郎

足軽式人

従者

+

同十二トイム (*蘭語 12cm の筒径?)

指揮方

靄田清八

原新兵衛

垣内左馬進

宗大藏

関惣六

安住平太夫

足軽三人

従者

49/126

同十二トイム

指揮方

綸山辰之助

江口大助

野崎五郎左衛門

多伊良三左衛門

小森久太郎

辻佐兵衛

足軽三人

従者

同十二トイム

指揮方

綾部三左衛門

50/126

牛島新五左衛門

古賀作太夫

水町一郎太

田雑源六

牛島又七

足輕三人

從者

同十二トイム

指揮方

川瀬幸四郎

野中大七

田雑弁内

大島弥平

古賀良三郎

武藤寛次

足輕三人

從者

外使役番兼

石井大助

石井又四郎

福島禮助

田中覚太郎

朝倉孫右衛門

中溝飛次郎

永山巳一郎

+

51/126

安藤傳八

從者

本陣附御武具其外心遣兼

江口十郎左衛門

医師

納富春碩

古賀元才

本陣附御武具其外

心遣兼手明鑓

永倉千八

坂本彦藏

右同組使番八人

三人分懸紙相成居候 足輕拾人

太鼓

鼓長御武具方手伝役より兼

手明鑓

西村□一郎

池上林平

打手

足輕四人

52/126

当地所々芝居辻打其外見世物等江

帶刀人又は仲間体之者無錢ニテ立入

且寺社祭礼法会等群集之場所ニ

於てかさつ法外之儀共有之趣相聞

不埒之至^ニ候今般御一新之折柄

右様不法之儀有之間敷候得共

自然心得違之者有之候半は召捕候

筈^ニ付其分可相心得候事

二月

+

右之趣被 仰達候条被得其意支配

有之役は且召仕共江も応^ニ可被相達候

辰二月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外

別段御供伍長

御歩行与代

当節末

53/126

朝之英公使伏見駅止宿之節御用 *ハリースミス・パークス

取次其外護送等被為蒙

仰付仕組左之通

本島藤太夫

右は御挨拶其外心遣等兼

百武作右衛門

右は附廻諸心遣兼

長森傳次郎

右は諸心遣

+

藤瀬孫太郎

手明鍵

下役

右は銀遣

一、警衛

ス／＼セル銃

鉄砲持詰

エンヒール銃

同足軽式拾人

小道具拾人

*スペンサー銃・1860年南北戦争直前アメリカで創始され

た後装式7連発の小銃。銃身は鋼製口径12.5cm 歩兵銃は全長

118cm銃身長85cm。(*1861~1865)

*エンフィールド銃・ミニエー銃の別称。英国製鋼製で前装式

全長125cm銃身84cm。弾丸は紙製の弾薬筒を使用する。

右は明廿七日正明ヶ六時出立

54/126

伏見駅罷出候様扱又足軽小道具

江は甲笠胴服御武具方より被

相渡儀候

一、役々之儀今廿六日より彼地罷越

夫々無□様手配相成候様

一、自然異人共江何角悪口等敷儀等

無之儀は勿論無作法且何角評判等

堅無之様以下々々迄頭々より急度申論

相成候様

+

一、警衛方之儀前後二隊^ニ見物人等

無作法之儀等無之様氣を付万一
礫等相掛候者抔有之候ハ、則召捕
相成候様之事

附^{つけたり} 一隊二十人宛残二十人之儀は英人之左右^ニ

相立見計を以警衛相成候様

一、警衛方侍隊心遣

石井文次郎

堤久之允

55/126

一、同伍長

増田大一郎

横山勲蔵

一、足軽隊心遣

村岡謙助

関峯太郎

一、本島藤太夫儀主従七人^ニ被差越

儀候事

但番馬被差出儀候事

+

一、役々旅宿等之儀夫々手当相成候様

但藤瀬孫太郎其外存

一、格々^ニ心^ニシ旅飯料被差出儀候事

一、警衛方之儀腰兵粮用意之事 *腰に付けて携行する当座の

一、右同断着服戎装之事 兵粮。

附袖印相用候様事

一、右同断番割を以昼夜廻方相成候様

一、竜土水其外火消道具之儀見量
を以用意相成候様

56/126

但銀遣方存 *心得る。

一、警衛方一隊^ニ玉薬箱式荷宛御武具方

より夫々入込都合四荷被差越候事

一、英人食用方等^ニ付て諸手配左之通

一、夜具之儀士官以上は絹夜具歩卒

之儀は木綿^ニ可然事

一、豕猪牛肉鳥類其外野菜等用意

相成候様

但ハンは用意罷在由^ニ付手当^ニ不及

候事

+

一、菓子果物等右同断

一、ターフル臺扱又コンフラ等之儀大坂

役々心を以夫々問^ニ合候通手配相成候様

右食用手当之儀念を入疎之儀無之様

一、為諸心遣孟春丸御船乗組之内左之

人々急速伏見駅迄被罷越候様通達

相成候事

中牟田倉之助

平尾伴之允

*孟春丸艦長・3月23日は藩兵と海軍先鋒総督大原重実をの
せて横浜に到着。その後浦賀に停泊中の仙台藩、盛岡藩の艦船
を接収（5月23日）などに活躍した。

57/126

一、馬乗之者も有之哉ニ付厩凡式拾疋程之
用意相成候様

英公使一人

士官六七人

歩卒百人計

以上

辰二月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

+

百武作右衛門 其外

掛り合之人々略之

58/126

+

今度横浜被遊

御越候付て左之通被 仰付儀候

一、御供立中服躰之儀打追戎装被 ?

仰付候

一、上下肩衣平胴織袴等用意ニ不及候事

附御小姓御広間番迄襠高袴一具宛持越相成候様

一、別段御供之儀御行列前後ニ被相立儀候

尤鉄砲持詰之事

但手明鐘其外江被相渡置候鉄砲之儀は御武具方江

引付相成候様惣て右役等より持越至る時

被相渡儀候

59/126

一、御行列之儀当節 御下坂之節同様之

楯組ニ被 仰付候儀候

一、御小姓頭始御送師其外通馬等迄ニ
比竟を以被差出儀候

一、御年寄以下御進物役迄番馬被差出

御医師之儀は宿駕籠被差出儀候

一、御本陣不寝番相勤候面々之儀も宿駕籠
同断

一、御年寄

+

一、御年寄

+

兩掛 一

合羽籠 一

一、御進物役以下

右は兩掛老荷宛手明鐘は兩人舩ニ老荷宛持越相成
候様

一、別段御供侍

右は兩人舩老荷宛尤組合内老人端ニ相成候向江は

老荷宛被差出儀候

一、御医師三人

薬籠 一宛

兩掛 一宛

60/126

一、別段御供侍七拾人

内

四拾人御船乗三拾人御供

又内

式人指揮方六人御本陣不寝番

残人数式拾式人

但御昼代ニシテ拾人宛御供

一、御先立御徒拾老人

内

式人御側供老人宿割

+

残人数八人六隊

一、別段御供足輕六拾人

内

四拾人船乗式拾人御供

又内

八人御本陣番

但御内江四人宛詰切半夜代り隔番勤

老人雨具才領老人駄荷才領

残十人兵隊

一、小道具式拾式人

61/126

内

式人御鑓懸り

六人使番

但三人御本陣詰切り

式人本陣触式人行儀奉行付之者老人

雨具才領老人駄荷才領

残八人兵隊

伍長

横尾六治

鹿江五郎三

空果節藏

宮崎大助

横山勲藏

原辰一郎

+

前山寛藏

荒木藤三郎

伍長指揮方

石井文次郎

藤山忠八郎

三谷忠太

原大之助

中橋藤一郎

土肥平之允

石井才吉

加賀精一郎

指揮方

村岡謙助

宮原彦六

江副栄次郎

中地藤太

江原弥[□]助

62/126

野辺田鶴一郎

高岸甚六

山本清吉

山田五郎助

伍長

徳久幸次郎

向井小三郎

嶋内藤吉

大渡文次郎

池野勝馬

木下市郎次

指揮方 三浦安之助

柴田兵之助

半田玄之助

生島精八

山内甚八郎

松永権次郎

亀川清次

+

右は蒸気船乗

辰三月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

当節横浜

御出張ニ付御供立中成丈簡易ニ無之

不相叶殊ニ追々夏季ニも相移候付不用之

荷物等は夫々荷拵相整名前之荷札

相附御蔵元江引付相成候様左候て

63/126

取束追々蒸気船便を以御国許ニ被

差廻儀候

辰三月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

洪谷良次弟子

備中守殿家来

織田良益

宮内魯齊弟子

鷹之助殿家来

相良宗達

右は横浜

御出張中御供立中下療治被

仰付儀候

辰三月

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

今般大坂偕又横浜

御滞留中御広間番被 仰付候付江戸方

*お広敷の事？大奥の側に設けられていた大奥勤務の役人の詰所。大名屋敷の奥向き。台所や台所に続く部屋。

64/126

見合書役偕又臺子等別段被相建度 *4本柱の棚。茶碗

達出相成候得共書役之儀は不被 茶入れ諸道具を置。

仰付候条人々より書上相整候様将又御使者

等之時々茶煙草出引等御次臺子より兼帯

扱又手男之儀は次臺子部より兼勤被

仰付儀候

*手長のことか・貴人の家で饗宴などの時お膳を次の間まで運び給仕の者に渡す役。

辰三月

右之趣奉得其意候以上

元々方其外略之

+

横浜

御出張中仕組左之通

一、上下之礼節正敷(ただしく)以下々々迄無作法之儀無之様

頭々として猶又申示相成候様

一、自然異変之節聊(いささか)手後レ無之様夜日油断

有之間敷候事

一、御門限之儀明ケ六ツ時より暮六ツ時迄之事

但就御用夜分罷出候半て不叶候節は夜札申宛相成候様

一、兼て御定之通御門出入札を以通行相成候様

65/126

手配相成候様

一、大酒女遊堅禁止之事

一、喧嘩口論無用之事

一、異人館江狼^ニ罷出申間敷事

附自然武器躰之整物有之無余儀罷出候半て

不叶節は其訳御目附迄申断罷出用事

相濟候半は則罷帰可申事

一、別段御供侍御式台当番之儀京都比竟

割番を以勤番有之候様

附御使者等罷出候節は先以引入置御進物方

御小姓間より応対有之候間則申通相成候様

+

一、別段足輕五人宛昼は一時^ニ一度夜は小半時^ニ

一度鉄砲相携柵外を見廻り候様自然

胡乱なる者杯於有之は姓名等承糺其段

御徒目附迄申達候様

附廻方之時々御徒目附江出着共鈎合候様

一、時廻之儀嚴密^ニ触廻候様

一、表御門番昼は三人宛夜分は五人宛御式台

前御門之儀は昼兩人夜三人宛代り合を以

勤番致し候様

66/126

一、銃陣飯前等之稽古明十八日より被相始候条

役々之儀も成丈差繰を以出席相成候様

九字より十二字迄 一字より四字迄

附り朝は五半時より九時迄晩は九ツ半時より七時迄尤

雨天之節は被相止儀旨将又侍手明鍵二男三男等

為従者罷出居面々も致出席候様

一、御門出入札之儀御目付より被差出儀候

附夜札之儀扱又御用聞町人共江も右同断

一、夜札之儀御年寄江願出儀候様

一、日々雇職人并人足等御門出入之儀其向々

より之印鑑板^ニ売買付并名前書載相成

+

出入り有之候様偕又右印鑑相渡候義書付

を以表御門御徒目付迄差出相成候様

附本文見合印鑑壹枚宛裏御門江右同断扱又

焚出方部賄其外右同断

右之通被

仰付儀候条支配有之役々は其節応^ニ可被

相達候以上

辰四月

右之趣奉得其意候以上

増田忠八郎其外略之

67/126

非常御仕組之儀は兼て別紙之通

被相達置候併万一不意之異変

出来之節は神速兵合之仕相整居

候半と不叶^ニ付左之通被

仰付儀候

一、御年寄始役々之儀は

御馬廻御守衛可仕事

一、侍式拾人足輕式拾人東久世殿江被相附

儀候事

*東久世通禧(みちとみ)鳥羽伏見の戦争では新政府軍事参謀、

外国事務掛兼帯、3月19日神奈川裁判所総督・神奈川府知事
歴任す。

+

一、自然夜分之節之挑灯一通渡方其外

定御側供より心遣候様

一、御武具方より挑灯御旗等兼て御式台江
備付相成候様

*玄関の間に前に設けられた低い板敷の部分で前面の庭なごし
土間などから床上に上がるのに用いられる。

一、御召馬は勿論番馬迄御馬方より神速

仕廻方等相整居候様

一、自然異変之節速_ニ馳集候半て不叶

_ニ付兼て太鼓方被相願置候者共速_ニ太鼓を
打廻候様

68/126

一、兵隊立込場之儀兼て板札被相建置候

条右之場所江速_ニ相集候様

一、銘々受持之役向期_ニ至無手支様兼て
夫々手筈相付居候様

一、一番隊 御歩行四人

足軽式拾式人

指揮方村岡謙助石井文次郎

一、二番隊 但別紙有り

侍三拾人

指揮方張玄一同助諸熊義左衛門

+

一、三番隊 但右同断 侍三拾人

指揮方田中五郎左衛門同助高木弥左衛門
一、四番隊 足軽式拾六人

+

一、四ポンド(1818グラム)銃壱挺

指揮方本島喜八郎

亀川清次

深江秀太郎

69/126

御筒懸 久保善之允

足軽四人

一、同壱挺

指揮方 嶋内平之助

御筒懸

池野勝馬

中地藤太

宮田新助

足軽四人

足軽式人

右之通被 仰付候条支配有之役々は
其節屹度可被相達候以上

閏四月十七日

右之趣奉得其意候以上

別紙

村山平左衛門

二番隊 其外九人

横尾六治

70/126

其外九人

空閑小左衛門

其外拾人

中西仁助

組合之内より式人

〆三拾人

湯原清一朗

其外九人

藤山忠八郎

其外九人

+

三番隊

関本小五郎

其外六人

中西仁助

組合之内より五人

諸岡奎之允

組合之内壱人

〆三拾人

外鍊隊

諸岡奎之允

其外六人

71/126

土肥平之允

其外六人

志波又太郎

其外五人

生島精八

其外八人

諸岡奎之允

組合之内より壱人

〆式拾人

+

右は東久世殿江被相附之

田中五郎左衛門其外略之

今般神奈川御台場御請取相成

候付左之通被 仰付儀候

但五日宛^ニて交代之事

一、御筒打侍五四人

但右同断

一、足輕八人

一、鉄砲胴乱等銘々持越相成候様

一、飯米銀等自餘見合を以被差出儀候

72/126

一、筆紙墨其外世具類等右同断

一、御紋付御幕二切

一、同高張提灯二挺

一、同弓張提灯三挺

右之趣奉得其意候以上

元〆方其外略之

掛紙

本文之通 □ 神奈川御台場御受取相成候付御筒打

以上

被相達置

+

候処今般

侍式人足輕

六人被差越

儀候

但明後廿九日

昼後より交代

被相改候事

侍差越候付飯米銀差出旨

被相達候得共費出被差出儀候付ては交代

等ニ付て内分雜費も可有之ニ付補として

左之通被差出儀候

侍四人

一、焚出

一、銀六匁宛

右は茶炭其外代一日分

一、同様匁宛

右は補御合力右同

73/126

足輕八人

一、焚出

一、銀四匁五分ツ、

右は茶炭其外代一日分

一、同五匁ツ、

右は補御合力右同

一、小遣男老人

以上

辰四月

右之趣奉得其意候以上

+

元々方其外略之

京都より之来状写

一筆令啓達候昨日太政官代より紀伊

中納言殿江御達相成候由ニて別紙之通廻達

相成候付本紙写之通御請書御差出相成候

惣ては阿州其外之調練

御覽被遊候処至極練熟ニて中々此御方

兵隊杯とは骨壤之違ニ相見候様被

74/126

思召候然処前文之通御廻達相成候ニ付てハ

横濱表御着之上猶又練兵一条御励有之

練熟之人も有之候得は右之内名前等急速

申越候様取計可被申候此段仍て相達

如斯候恐々謹言

中野数馬 判

四月十一日

原田小四郎殿

+

別紙御書付写之通於京都調練被

仰出候旨申来候付於此御方も明十八日より

銃陣稽古被相整候条猶又出精有之

候様

辰四月

別紙御書付写

三八ノ日

紀伊中納言

鍋島肥前守
中川修理太夫

75/126

丹羽長門守
京極佐渡守

小笠原左衛門佐
谷大膳亮

右日割之通於聖護院村操練場

調練被

仰出候間其旨可承候事

但辰半刻より致出張軍努懸江届可申出事

四月

* 4月16日横濱裁判所鍋島直大佐賀藩兵に護られて陸路横濱に到着。翌日海路で総督東久世通禧が横濱に入った。

* 4月20日平和裏に神奈川奉行から役所を接收、神奈川裁判所（横浜裁判所を改称）が発足した。裁判所とは新政府の地方統治機関である。ここでは特別に税関業務など外国貿易にかかわる特殊な業務も旧幕府から引き継いだ。

* 4月24日東久世通禧と鍋島直大は佐賀藩兵を率いて神奈川台場を接收した。

十

一、当朝辰半刻無遅々人数相揃着到之砌
隊長より可申出事

一、兵隊屯所_ニおいて発砲致間敷事

一、御暇之御沙汰有之迄隊々扣居事

一、進退之節可為行軍事

以上

右之趣奉得其意候以上

多々良勝兵部其外略之

76/126

当港諸番所御請取相成候付ては
守衛人数等左之通

一、神奈川渡船場

右は番士五人下番之処は地之者打追被相頼置

* うちおい・その場から去らせる。

一、谷戸橋口

右同五人下番同断十人

一、西橋

右同三人下番同断十人

一、吉田口関門内外

十

右同三人下番同断十人

右いつれも昼夜ツ、にて交代相成候様

一、石崎関門戸遍御番所野毛御番所
之儀御幕提灯丈被差出儀候

一、帯刀人通行之節は用向承糺人を付送届
相成候様

相成候様

一、関門之儀明ケ六ツ時相開キ暮六時より切夜中ハ
水門より為致通行候様

一、御式台番之儀昼夜四替_ニ五人ツ、

77/126

一 昼夜_ニ二十人勤番相成候様

- 一、久世殿江別段御供侍拾人同足輕拾人宛
毎日被差出儀候条朝五時交代相成候様
- 一、番所御請取之節侍は主従式人鉄砲
壹挺宛足輕之儀は鉄砲持詰右鉄砲行儀
能番所江飭付置候様

附り従者人数不足之分は出入被差出儀候

- 一、壹ヶ所ニ棒八本宛御用意相成儀候

- 一、交代之儀一昼夜宛ニて替合相成候様

+

- 一、前断ヶ所々々之儀猶又守衛方無疎様

郡目付御歩目付下目附追廻ニベ日々

見廻候様

- 一、番中行儀正敷決て猥之儀無之様

- 一、自然何角異変之儀有之節は番人

之内耆人早速

御本陣罷出致注進候様

- 一、吉田谷戸番所之儀は帯刀之人出入等は

猶又厳密相改候半て不叶ニ付能々相改

78126

差通候様自然不審相敷儀も有之候

半は通行差留候様

附御供立中之儀は為目印角取印腰ニ

下ヶ候様被仰付儀候

- 一、食用之儀は焚出方より無遅滞夫々差廻
相成候様

但八ヶ所分

- 一、御紋付与力提灯式拾四挺御武具方より

被差出儀候

右同断

- 一、前断御幕其外御蔵元より夫々持届

+

相成候様

- 一、神奈川渡船場

- 一、谷戸橋口

- 一、西橋

- 一、吉田口関門内外

- 一、前田橋口

右五ヶ所ニ一ヶ所江小使耆人宛則被相願儀候

右之通被

仰付儀候条支配有之役々は其筋応ニ

79126

可被相達候

辰四月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

四月四日太政官代并神祇事務局より

御呼出ニ付田代兵助罷出候処非蔵人を以

被相渡候御書付

新に

+

聖業御隆興之上は天下万姓各得其所
候様深ク御仁恤被為

在凡百之宿弊盡ク御一洗之

御趣旨ニ付五畿七道其他諸道筋通行

之節是迄幕吏ケ等之如キ悪業有之候

ては決して不相濟事ニ候爾來宮堂上方

諸侯及陪臣等往來致シ候節隨從之者共

下部ニ至候迄万一威權ケ間敷又は賄賂等を

貪リ惚ケ不法之振舞候半は早速

80/126

其筋裁判所又は其向之役所江可訴出也

若隱置後日於相頭は屹度曲事可

申付者也

右之通被相達候付被得其意支配有之

役々は其筋應ニ可被相達候

辰四月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

十

銃陣稽古之儀最前被相達置候内

替目左之通被 仰付儀候条猶又

無懈怠出精有之候様

一、明六時始ニメ昼四ツ半時迄毎日一度ツ、被相整

儀候 *午前11時ころ。

一、銃陣心遣之人々御供其外被相勤候様

右之趣支配有之役々は其筋可被相達候以上

辰閏四月

右之趣奉得其意候以上

81/126

御駕籠心遣其外略之

別段御供侍伍長并組合割替目

扱又勤其外左之通被 仰付儀候

一、別段御供侍拾人宛

右は東久世殿江毎日被差出儀候

一、同八人宛

右は毎日御供

一、同式人宛

*東久世通禧は4月17日横浜裁判所総督として海路着、4月20日副総督鍋島直大と共に神奈川奉行から役所を接收し横浜裁判所が発足した。(「辰の横浜」横浜歴博・開港資)

十

右は神奈川御台場詰五日宛ニメ交代

*新政府軍は4月24日神奈川台場に進駐した。

一、同拾人宛

右は御式台番昼五人夜五人宛

右いつれも十日ツ、請持順番交代相成候様

一、右人数之外は最前被相達置候通銃陣

稽古専務之儀ニ付無懈怠様出精相成

候様尤一五之日は終日休日之事

一、閑暇之折会読且又劔術柔術棒術等之稽古勝手次第之事

82/126

附り御徒以下柔術躰術稽古等本文
同断

*素手あるいは短い武器を以て敵を攻撃したり敵の攻撃を防禦したりする術。柔術拳法の類。

右之通支配有之役々は其筋可被相達候

辰四月

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

御歩行以下胴服之儀御武具方より被

差出置右は

御出陣之節被差出候半て不叶_ニ付急速

+

其節相納候様尤諸渡方等も被差出

候付ては銘々用意を以致着服候様被

仰付儀候条支配有之役々は其筋可被

相達候

附甲笠扱又直平笠之儀は御一千御印_ニ付

打追被差出置成候

閏四月

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

83/126

近来江戸近在_ニおいて戦争有之且

賊徒等浦賀其外襲来之趣相聞候

付ては当表之儀油断不相成_ニ付番所

御門番足輕昼夜共小半時交代にて

鉄砲相携壱人宛致立番候様扱又柵外

之儀兩人宛是又鉄砲相携小半時_ニ一度宛

廻方いたし自然不審成者杯有之候

半は名元等承糺猶又胡乱相見候ハ、

召捕候様惣て出着共時々御徒目付江

+

釣合候様被 仰付儀候

附り雨天之節は御門番所軒下江傘被置

候様

右之趣支配有之向は可被相達候以上

辰閏四月

右之趣奉得其意候以上

元_レ方其外略之

当所裁判所掛り市郷共非常

為取締廻方被 仰付_ニ付左之通

召連廻方相成候様

84/126

一、別段御侍兩人宛東西江分足輕五人宛

召連廻方相成候様

但主従式人鉄砲壱挺宛為持相成候様扱又従者

不足之儀は出入被差出儀候

一、足輕之儀は十手鍵繩等相携且又

甲笠胴服股引着用之事

一、腰兵粮用意之事

一、夜中廻方之儀提灯等其筋より相達候様

一、廻方之節村役人杯江立寄候節飯令

酒食等差出候躰之儀有之候共断相成候様

+

一、第一猥之儀等無之様兵糧等相開候家も

成丈不目立場所ニテ支度相整候様

御一新之折柄ニ付民心致安堵候様鎮撫之

御主意被差含聊疎暴之挙動無之様

一、民間之患難疾苦御救助も無之て

不叶□者有之候ハ、事情承糺達出

相成候様

一、胡乱成者於有之は得と承糺依□□

召捕相成候様勿論手過手荒之取計等

85/126

決て無之様

一、廻方之儀左之人々追廻ニ勤相成候様

諸岡李之允

多々良勝吉郎

石井平治

横尾六治

空果小左衛門

湯原清一郎

石井文次郎

+

村山萬太郎

土肥平之允

池野勝馬

一、高老万千三百式拾石七斗九升壹合四夕四才 武蔵国

拾ヶ町

拾五ヶ村

此訳

高五千八百八拾三石九斗七升四合九夕四才 久良岐郡

四ヶ町

七ヶ村

86/126

横濱町 戸部町 太田町

吉田町 北方町 中町

根岸村 本牧本郷村 太田村

平沼新田 尾張屋新田

一、高六千百五拾六石八斗壹升六合五夕

橘樹郡

六ヶ町

八ヶ村

神奈川町 青木町 鶴見村

生麦村 西子安村 新宿村

東子安村 柴生村 藤江新田

岡野新田 保土ヶ谷町 岩間町

神戸町 帷子町

神奈川宿之内 吉田町之内 戸部町之内

新獵師町 吉原町 野毛町

横濱元町 弁財天町 駒形町代地

縁町 新濱町 若松町

真砂町 末広町

是は裁判所御預郷村高帳之内新町等之分

87/126

右之通被

仰付儀候条支配有之役々は其筋可被相達候

辰四月

右之趣奉得其意候以上

元方其外略之

一番隊

諸岡奎之允

其外

大伍長

多々良勝吉郎

其外

+

村山平左衛門

其外

本谷基助

其外

横尾六治

二番隊

大伍長

空閑小左衛門

其外

湯原清一郎

其外

石井文次郎

其外

中西仁助

其外

土肥平之允

其外

88/126

池野勝馬

其外

足輕一番隊

与代

西岡利兵衛

青木喜兵衛

伍長

古賀儀八

犬山義左衛門

角野善六

北村儀七

川副源十

森永伊太郎

古賀助作

御厨嘉兵衛

伍長

久米半蔵

池田傳次

堤 豊次

鶴與八

+

嘉村平太夫

田平鶴次郎

光武次平

赤目作市

春野善吉

沢野六助

伍長

寺崎太蔵

宇野善次

志波徳一郎

山口與作

納留儀左衛門

西與助

本庄浅次

古賀次作

大川新平

渡瀬源十

小部瀬平

今泉喜兵衛

89/126

中原作助

原口伊右衛門

中村源七

江口吉蔵

古賀友次郎

八谷愛助

中嶋伊右衛門

右同二番隊

坂井良蔵

其外三拾八人

名書略之

右之通被 仰付儀候

辰閏四月

+

右之趣奉得其意候以上

元々方其外略之

御歩行以下之者共柔術棒術等稽古をも相整候様

一、御仲間手男等之儀も手透次第砲術

的前等稽古相整候様

*射術の練習に的に向かつて弓を射

る事。射芸を試みる事。

一、昼間之儀は銃陣稽古有之候付前断

柔術等之稽古は晩方相整候様

90/126

一、右柔術等之稽古誰心遣被

仰付儀候

右之通被仰付儀候条支配有之向は

其筋可被相達候

辰閏四月

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

来ル廿七日より東久世殿御出府ニ付為

+

御随従左之通被差出儀候

一、侍拾人

一、手明鐘式拾人

右は鷹之助殿組内より

一、足輕式拾人

以上

辰閏四月廿五日

右之趣奉得其意候以上

元々方其外

91/126

鷹之助殿組与扱

嬉野弥平次其外上下六拾人餘東久世殿江

被相附江戸被差越候条賄等之儀は

鷹之助殿組小荷駄方より夫々取賄相成

候様尤足輕式拾人之儀は追て売帳相成

候様被 仰付儀候

*?品物の代金を記入する帳簿。

辰閏四月廿六日

右之趣奉得其意候以上

+

元々方其外

鷹之助殿組小荷駄方

一、神奈川御台場之儀鷹之助殿組侍手明鐘

三拾人相詰程ヶ谷往は谷遍迄巡邏請持相成候様

一、祝放之儀前断詰侍手明鐘より相整候様

尤合葉等之儀は御武具方より即ニ時被差出

儀候条其心得相成候様

一、野戦銃式挺御用意相成居候条異変

92/126

之節右打手之儀鷹之助殿組一手被

仰付儀候条打前等稽古相成候様

一、吉田番所其外之儀右侍手明鑑より請持候様

一、吉田橋番所 侍 *開港場に通じる関門の一。

手明鑑間八人
足輕六人

一、石崎 侍

くらやみ 手明鑑 間七人宛
足輕三人

右之通被 仰付候条支配有之向は其節

+

可被相達候

辰閏四月

右之趣奉得其意候以上

元々方其外

鷹之助殿組与扱扱又

小荷駄方江も相達之

横濱両運上所江足輕三人宛被差出儀候

*元神奈川奉行所と
運上所?

辰閏四月

右之趣奉得其意候以上

93/126

元々方其外略之

神奈川御台場扱又吉田番所其外左之
ケ所々々鷹之助殿組江御請杯被

仰付置候得共監物組江交代被
仰付儀候尤足輕之儀は打追之通

一、神奈川御台場

一、吉田橋番所

一、石崎

+

一、くらやみ
以上

元々方其外

鷹之助殿組与扱扱又

小荷駄方

監物殿組与扱扱又

右同

94/126

一、神奈川御台場之儀監物殿組侍手明鑑

三拾人相詰程ヶ谷遍迄巡邏請持相成候様

一、祝放之儀前断詰侍手明鑑より相整候様尤
合薬等之儀は御武具方より即に時被差出

儀候条其心得相成候様

一、野戦銃式挺御用意相成居候条異変
之節右打手之儀監物殿組一手ニ被

仰付儀候条打前等稽古相成候様

一、吉田番所其外之儀右侍手明鑑より請持候様

+

一、吉田橋番所

侍
手明 間八人

足輕 六人

一、石崎 侍

くらやみ

手明 間七人

足軽 三人

右之通仰付候条支配有之向は

其筋可被相達候

辰閏四月廿九日

右之趣奉得其意候以上

監物殿組与扱扱又

小荷駄方江達之

95/126

鷹之助組一手之内精選を以江戸

大総督府江被差出候付左之通

一、三拾五才已下壯強之人より被差越儀候

一、隊長

一、玉葉之儀先以別紙之通持越相成居候様

尤彼地之都合次第段々被差贈儀候

一、四ホント銃式挺被差出儀候条玉葉等御

武具方より差出相成候様

一、従者等成丈相減一騎駈同様之楯ニ罷出

十

候様

一、指揮方之儀は組内ニおいて精選相成候様

一、小荷駄方

鐘ヶ江傳之允

手明 鑓四人

下役等

一、侍

但一隊二十人宛

一、兵六拾人

一、手明鑓

96/126

一、足軽

右之通被 仰付儀候以上

辰閏四月

右之趣奉得其意候以上

元ノ方其外

鷹之助殿与組扱扱又

小荷駄方江も達之

別紙

スヘンセル銃所持

兵隊六拾式人

十

右玉葉壺人前百放当用意外ニ三十放丈

胴乱入込

先込エンヒルト銃所持

侍手明鑓

右同断

右玉葉丈御国許より持越相成居候事

*エンフィールド銃は南北戦争で大量に使用された前装施条銃。終戦後不要になった銃は日本に多く輸出された。「戊辰の横浜」p30。

外ニ

一、先込銃 老挺ニ付百放分

スヘンセル同 用意

右は大坂より持越相成居候事

97/126

別段御供侍隊長其外左之通

被仰付儀候

隊長

小代清八

村山平左衛門

村山萬太郎

空閑小左衛門

助

山口松之助

半田玄之助

横山勲蔵

山内甚八郎

伍長

+

横尾六治

土肥平之助

諸岡奎之允

石井才吉

向井小三郎

千住安左衛門

中西仁介

湯原清一郎

川副嘉源太

石井文次郎

江副栄次郎

直塚孫八

石井平治

池野勝馬

森川麟八

中野徳太郎

本吉基助

98/12

右之通被 仰付儀候

辰五月

右之趣奉得其意候以上

小代清八其外略之

着替其外用意品等成丈簡易致し

銘々従者ニテ持運相成候様

附御歩行中江目籠長持一挺坊主以下御

供立足軽小道具中江同式挺尤足軽兵隊

江は一隊ニ挺ツ、被差出儀候

*物を入れて持ったり背負ったりうる、目を粗く編んだ箆

+

右之通被 仰付儀候

辰五月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

野州表 御出陣ニ付左之通

従者之儀北陸道出兵之楯ニメ致込上候向は

可被相省哉ニ候得共御国許被差返候御運

迎も不相附候付ては餘り丈之処侍手明鐘

99/126

二男三男之儀は兵隊ニ被相加平人之儀は

手男等不足之向江見計被相願候付込上之

向は急速達出相成候様之事

番頭

主従四人

手明鐘頭

同三人

+

物頭

同二人

平士役掛り

式人舩^ニ從者一人 *ふね・いかだ

平士

十人舩^ニ從者三人

手明鑓

十人舩^ニ從者式人

右之通被 仰付儀候

辰五月三日

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

別段御供侍隊長其外左之通

100/126

被 仰付儀候

一番隊

一順

隊長 横山勲藏

二番隊

一順

隊長 山内甚八郎

三番隊

隊長 村山萬太郎

四番隊

上同

同助伍長兼 川副嘉源太

上同

同助伍長兼 向井小三郎

同助 中西仁助

同助 中西仁助

隊長 山口松之助 同助 諸岡奎之允

+

伍長 石井良三郎 伍長 荒木藤三郎

右之通被 仰付儀候

辰五月

右之趣奉得其意候以上

横山勲藏其外略之

今度野州表御鎮撫不日被遊

御進發儀候条彼地之人民致安堵候様

御仁恤之

101/126

御趣意を奉戴いたし国民^ニ対し

聊疎暴手荒之挙動有之間敷候

自然

王化を妨国民を害し候賊徒於有之は

是非打挫候半て不叶^ニ付以下々々迄

片時も無油断勉励いたし惣軍一和

可抽軍忠覚語勿論事候

一、御行列之儀別紙之通被 仰付候儀候

一、從者并夫丸之儀腰牌相用候様尤 *人夫・人足・陣夫

+

札之儀は役筋より被相渡性名等書法

之通相認可申候事

附認様左之通

表肥州軍符印

裏何之何某從者 夫丸何某

一、官軍肩印被相渡儀候勿論
御私之肩印をも相付候様

附右之肩^ニ相付候事

一、主従人数左之通

主従五人

但玉葉箱一出人

御年寄

102/126

同三人宛

御側頭

御側御目附

手明鑓頭

同三人

御進物役

式人舩^ニ從者一人

御側平士中

但御次中は從者一人宛

十人舩^ニ同三人

別段御供侍

十人舩^ニ同式人

御側手明鑓

十五人舩^ニ同一人

同御步行

+

一、非番之面々も一纏^ニ罷越聊猥り

ケ間敷儀無之様之事

一、御年寄始御進物役迄番馬被差出

儀候

一、御使番之儀御小姓左之人々被

仰付其時々番馬被差出儀候

附本文番馬三足用意相成候様事

本島喜八郎

古川源太郎

野田浅一郎

倉永十三郎

103/126

田中寛太夫

一、別紙御供侍足輕江御提灯十人^ニ

式挺^ツ、被相渡儀候

一、御供立中風呂敷包一宛用意相成候様

附一人前凡壱貫目計成丈簡易^ニ目籠

長持江入込小荷駄方より運送相成候様

一、御用物始自分荷等当分不用之

品々は小荷駄方江引付置追て野州表

取寄相成候様

右之通被 仰付儀候

+

辰五月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

御門番之儀被相達置候得共無余儀用向

等^ニ難渋可有之^ニ付左之通尤当折柄

^ニ付遠方不罷出近所^ニて整物等相濟候

儀は兼て屹度其心得相成居候様被

仰付儀候

104/126

一、別段御供扱又監物組兵隊一隊^ニ御門

出入札五枚宛被相渡儀候条昼晚

代り合等を以用事相弁候様且又從者

之儀も一隊^ニ式枚宛被相渡儀候

但別段御供侍之儀毎日御供被 仰付候付てハ

五日ニ凡壹日程ならて閑日無之ニ付壹隊ニ拾枚宛被相渡儀候尤不被遊

御登營候共御供当番之隊は外出無之様

一、別段御供侍五隊之内

但大砲掛其外一隊入ケ

+

御本陣当番江一隊

御供勤 貳隊

□□御警衛 一隊

休 一隊

一、役々之儀も應人数右比竟可被差出候得共

御用之繁閑も有之ニ付役局々々より

札数相達之上被相渡儀候

一、監物家来江板札八枚小者札拾枚被相渡儀候

一、戦地ニおいて玉葉配当之儀御武具方役々

ノミニては届兼可申ニ付九番隊之内御徒

105/126

之分右配当方ニ被相部儀候

一、兵粮并手負心遣之儀小荷駄方より夫々心遣

相成儀ニは候得共即尔時届兼候儀も可

有之ニ付九番小道具之分右心遣被

仰付儀候

右之趣支配有之役々は其向可被相達候

辰五月十三日

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

+

*5月15日上の戦争。佐賀藩はアームストロング砲で彰義隊を攻撃す。

水戸

目附方下役

根本徳三郎

同

矢島金之助

右は今十七日五半時頃本郷六丁目加州

屋敷前通ニおいて巡邏隊之族江行逢

候由之処如何之行違有之哉右兩人殺害

被致候事

五月十七日

106/126

右届書之写

別紙届之通相違出来無罪之ものを

切殺ニ至候ニ付以後猥ニ打捨被止候事

五月十七日

大総督府
下参謀

上野山内賊徒討伐ニ付諸見付門々昼夜

ノ切厳重被 仰付置候処最前御達之通

相心得警衛可致旨被 仰出候事

但官軍兵隊之儀は御袖印相付通行可申事

五月十七日

大総督府
下参謀

+

上野山内取締半途ニ付雜□官軍私ニ

山内ニ立入之儀一切被差止候事

五月十八日 下参謀

上野山内討伐之節戦争相働候藩々

兵隊明十九日整列御覽被

仰付候条辰半刻大下馬前ニ可相揃旨

御沙汰候事

但雨天之節は日送り之事

五月十八日 大総督府

下参謀

107/126

侍手明鐘迄束髪可為勝手次第御歩行

以下は不及夫儀候

附致束髪候者は其筋達出相成候様

右之通被 仰付儀候条支配有之役々は

其筋應ニ可被相達候以上

辰五月廿日

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

+

一、異人笠鉢之物扱又同差傘等相用候

向も有之哉ニ相聞候条右は取止相成候様

一、御徒以下小袴体之者不致着用様

一、同断最前被相達置候通束髪不及

儀候条今又相達相成候様

一、手男之儀致帯刀候者も有之哉ニ相聞

不宜儀ニ付取止候様

右之通被 仰付儀候自然相背候者於

有之は屹度可被及

108/126

御沙汰候条支配有之役々其筋應ニ

可被相達候以上

辰五月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

外出之折(砌)間ニは廣袖襦高袴相着用

之向々有之哉ニ相聞心得違之事候条

戎粧之外決て着用不相成様屹度申合

+

相成候様

附日傘ハ勿論雨天傘無用之事

右之趣支配有之役々は其向屹度相達

相成候様

辰六月

右之趣奉得其意候以上

御番方其外略之

今般病院被相建候ニ付左之通被

109/126

仰付儀候

一、北長屋一棟病院ニ被差出儀候

一、御遣軒之儀取替ニ被差出儀候

附り請払之儀は自余同様相成候様 *そのほか

一、病院詰中は御施薬相成儀候

一、御蔵元役内持前之儀ニは候得共番人無之て

相不叶之儀ニ付諸心遣として左之者被

相部候

御用聞

真崎長兵衛

+

一、手男老人被相部儀候

以上

辰六月十一日

右之趣奉得其意候以上

元方其外略之

蔵元役之儀一先被相省御衛御引請被

仰付儀候右ニ付左之通被相減儀候

蔵元役

藤瀬孫太郎

110/126

郡目付一人

蔵元 手伝一人

大納戸同一人

御納戸同一人

下役三人

手男二人

以上

辰七月十三日

右之趣奉得其意候以上

+

御進物方其外略之

御国許罷帰候面々土産物等買整候向も

有之哉ニ相聞右は太平之宿習ニて当

折柄屹度相改候半て不叶儀候条抑

心得違之儀無之様支配有之向々は

其筋應ニ可被相達候

辰七月廿一日

右之趣奉得其意候以上

111/126

御進物方其外略之

今度被遊

御上京候仕組左之通

一、神奈川より大坂迄亞船御借入ニて

御船中被遊候事

附借船手当之儀は於其筋夫々相整候様

一、御用物其外荷物等之儀成丈御先

差越相成候様

+

一、御行列之儀横浜

御越之節同様之楯組ニ被

仰付儀候

附り自然出火之節も同断

但御医師之儀不及通馬被差出儀候

一、駕籠乗御供之分は番馬老疋宛被差出儀候

一、御小姓頭始御医師其外通馬等

横浜 御越比竟被差出儀候

一、御供立中服躰之儀打追戎装被

112/126

仰付儀候

一、御供立中鉄砲之儀神奈川ニて御

武具方江引渡相成候様□□股大阪表

被相渡儀候

附前段御供中ハ鉄砲持詰神奈川ニて武具方江

引渡相成天保山辺ニて被相渡持詰之事

一、手明鑓其外役付江被相渡置候鉄砲

之儀は於爰許其筋引渡相成

候様

右之通被

+

仰付儀候条支配有之役々は其筋

應ニ可被相達候

辰七月

右之趣奉得其意候以上

御番方其外略之

御参 内其外御□ニ御供衣服

之儀明朔日より左之通被

仰付儀候

御駕籠心遣其外略之

113/126

御側頭

御駕籠心遣

右は胴服襠高袴平小袖割

羽織之事

御供番

右は胴服たん袋裁付間平袖

割羽織之事

但後付袴割羽織着用いたし候様

被相達候事

+

別段御供

右は打追之通

御徒目付

定御側供

御側供

小道具

御仲間

114/126

右は筒袖襦袢股引平袖

割羽織之事

右之通支配有之役々は筋々可被

相達候以上

辰八月晦日

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

御滞京中左之通被

+

仰付儀候

一、表御門通用之事

一、御門限之儀明ケ六時より暮六時限之事

一、銃陣之儀明三日より於郡山屋敷被相整

儀候条毎日朝五時より九時迄無懈怠稽古
相成候様

附り役掛之面々も御用□□以成丈稽古
相整候様

右之趣支配有之役々は其筋應ニ可被
相達候以上

115/126

辰九月二日

右之趣奉得其意候以上

御番方其外略之

御本陣外下宿之人々外出之節ハ暮

六時限罷帰夜中猥ニ外出等無之様之儀

改て不及申候得共御門限も無之杯

相心得抑後セ之儀有之候ては不相叶候条

屹度其心得相成候様被 仰付儀候

+

附り支配有之役々は其向應ニ可被相達候

辰八月廿六日

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

地詰足輕之儀當時拾七人相詰罷在候処

御門番火消方相部り昼夜時廻奉札

使等有之前断人数丈ニテハ勤不行届

難渋之旨申達無余儀相聞候付時廻

116/126

奉札使之儀御供兵隊足輕之内打交
相勤候様被

仰付儀候

辰九月

右之趣奉得其意候以上

元々方公用方

御参

内其外御供之節弁当之儀自分賄之

+

人々は

大殿様御滞京見合自分用意相成

候様

附支配有之役々は其筋可被相達候

辰九月八日

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

今般

御東幸御留守中御警衛被為蒙

117/126

仰候付公用方役内江御警衛方役局

被相建候依之別段御供侍并御徒

足輕小道具之儀右後警衛方^ニ被

差出儀候

辰九月

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

御所御泊之節御供方以来左之通

十

被 仰付儀候

一、公用人^一人

但公用人手代

一、御小姓^一人

右は非藏人江泊り

一、御行列道具一式

一、御召馬^一老足

一、御側頭^一人

一、御駕籠心遣^一人

一、御小姓^一四人

118/126

一、御医師^一人

一、使番小道具^一式人

一、御馬取^一人

但夜具扱又弁当才領兼

一、元^一方手男^一人

右は日野様御方御泊り

一、泊番之外は御供帰り翌日御迎御供

正明ヶ六時

御所揃切之事

右之趣被得其意支配有之役々は其向

十

應^ニ可被相達候以上

辰九月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外

公用方

今度

御留守中御警衛被為蒙

仰付遊

119/126

御滞京候付御供立中御定之通

毎月五日限其筋月□差出候様被

仰付儀候

一、一六之日以来休日^ニ被

仰付儀候

附当番等相勤候向は打追之通

右之通支配有之役々は其筋可被相達候

辰九月

右之趣奉得其意候以上

十

御進物方其外略之

今般御仕組ニ付左之通被

仰付儀候

- 一、御右筆所之儀被相疊儀候尤御状
其外扱又御印方之儀は於御進物方
相整候様

- 一、御右筆所より爰元公用方詰之儀
被相止以來外向より相勤候様

120/126

- 一、御神事方偕又御側長崎御社廻方
之儀役名被相省候

- 一、帳究方之儀勘定所江被相附候
但當帳納帳濟迄打追之通

- 一、御牧方之儀外向被差出儀候
- 一、里御山方之儀御備立方江被相寄候

- 一、御道具方之儀先年御什物方江被
相寄置候処此節右役名相省候

以上

+

辰十月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

今般御仕組ニ付左之通被相減儀候

- 一順御側頭手許
- 志波利兵衛

御進物方附役一順定差配

宮崎十郎

辰十月

121/126

右之趣奉得其意候以上

御進物方

- 今般自分挑灯之儀別紙
雛形之通印相附候様被
仰付儀候

辰十月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

+

別紙雛形之半分より下タニ附ふし

自分紋付候事

(提燈の絵の下半分)

竹尺にて式寸(直径の内に家の紋を

描く)

122/126

(提燈の絵裏面)

自分紋付候事(直径二寸の丸の内)

+

渋谷良次弟子織田良益儀今度

御供立中下療治被

仰付置候処御断願之通被差免候

辰十月

右之趣奉得其意候以上

御駕籠心遣其外略之

御警衛方人々御供被

召遣候節食用之儀銘々取寄相成候儀

123/126

勿論之事ニ候得共差掛り俄御供被

仰付候勝ニて何分届兼候趣達出相成

右は無余儀相聞候付其節より被

差出儀候依之其時々御駕籠心遣より

元々方江達出相成候様被

仰付儀候

辰十月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外

公用方

+

当節金札之儀正金と相違遣出之節

多分ニ欠失相立何れも難渋之趣ニ付

当十月以後外向同様左之通割増

被差出儀候尤金壹歩より以下は打追

金百両ニ付拾式両式歩

以上

辰十一月

右之趣奉得其意候以上

御進物方其外略之

124/126

二重〇印 神奈川県立図書館

受入 33. 11. 14

K31. 1. 17

125/126

白紙

126

裏表紙

(了) 令和5年3月1日 読了

青葉区古文書之会 割石洋策

注釈は主に日本語大辞典・戊辰の横濱(横浜歴史博物館横濱

開港資料館編)などを参照した。